

平成21年度 第3回川崎市教育改革推進協議会

日時 : 平成22年3月24日(水) 15時～17時
場所 : 教育文化会館 第2会議室
出席者 : 小松委員、田中委員、大下委員、山田委員、宮嶋委員、小原委員、
村上委員、渡邊委員、石垣委員、木場田教育長、伊藤総務部長、
金井学校教育部長、鈴木教育改革推進担当参事
欠席者 : 高木委員、堀切委員
傍聴者 : なし
司会 : 高梨企画課長

〔配布資料〕

- ・第2回川崎市教育改革推進協議会摘録
- ・平成22年度教育費予算概要・重点施策
- ・かわさき教育プラン第2期実行計画(概要版)

1 開会

- ・本協議会が公開会議であることの報告
- ・教育長あいさつ

2 協議題

- ・「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況に係る点検及び評価に関する報告書(平成21年度版)」について(説明)

(委員からの意見・事務局からの回答)

・特別支援教育コーディネーター及び特別支援コーディネーターの取組みは、効果があった。また、今までは不登校児童等が在籍しているクラスの担任は、一人で問題を抱え込んでいたが、色々なサポート体制が整い、全体で取組める体制になってきている。

・重点施策2の「地域の中の学校を創る」は、区に教育担当が配置され、教育担当等と相談することにより、客観的に児童生徒を見ることができる。

・スクールソーシャルワーカーと区・学校支援センターの姿が見えてこない。まだ、開始して間もないが、今後、成果等をPRして欲しい。

・重点施策1～6を個々に評価していくと、施策が限定的になり全体が見えない場合がある。教育委員会全体をトータルに評価してもいいのではないかと。

- ・スクールソーシャルワーカー等の人員を配置した結果、どのような効果があったかを記載した方がよい。
- ・共生・共育プログラムは、児童・生徒だけでなく大人にも必要になってきている。
- ・共生・共育プログラムは、大変評価している。今後、教員対象の共生・共育プログラムの研修が始まっていくが、教員に定着し、継続的に研修を実施していくことを希望する。
- ・共生・共育プログラムは、幼稚園・保育園時代からやるべきである。
- ・区・学校支援センターは、学校のニーズと区・学校支援センターで実施できることのすり合わせが必要である。また、地域ボランティアの登録促進を実施して欲しい。
- ・区・学校支援センターはコンセプトがいい。モデル実施した3箇所の反省点や展望を踏まえ、全区で実施して欲しい。また地域のシニアの方々のパワーを活用した方がよい。この取組みが上手くいけば、学校だけでなく、地域力の向上にもつながっていく。
- ・地域の教育力を考える上では、ますます大学との連携が重要になってくる。
- ・継続的に実施している施策と新しい施策の連携が必要である。
- ・色々な人員を配置した記載されていますが、その結果どうなったかを報告書に記載した方が市民に分かりやすい。
- ・評価は、新しい施策だけでなく、継続的に実施している施策も評価して欲しい。1つのことを継続的かつ発展的に行うことも重要である。
- ・学校施設開放の現場は大変で、専任の人員を配置して欲しい。
- ・コミュニティ・スクールについて、学校運営は変化すると思うが、児童生徒の活動面においても変化があるのか。
- ・(事務局) コミュニティ・スクールは色々な形がありますが、特別活動などにおいて地域の方々の力を借りて児童生徒の活動面にも変化があるのか。
- ・コミュニティ・スクールは、教員が思いつかないようなアイデアや教員にはできないことを保護者・地域の方々の力を借りて、実施している。
- ・英語教育を小・中学校・高等学校を一緒に記載しているが、小学校と中学校・高等学校を分けて記載したほうがよい。

- ・地方で行う教員採用試験は、人材の質の面でよいが、地元の採用も重要である。また、教員養成大学との連携も重要である。

- ・管理職が、夢を持たないと学校の元気がでない。チャレンジ教頭など、色々な管理職登用制度を実施し、夢を持っている管理職を育てて欲しい。

- ・教員は授業などに追われ、忙しい。教員のライフステージに応じた研修が受けられる体制を整えて欲しい。また、受けたくなるような研修を実施して欲しい。

- ・学習を通して、繋がりやコミュニティ作りをどのように形成していくかが重要である。

- ・AEDについては、メンテナンスも重要である。

閉会